
幼虫、蛹、蝶

まったりorz

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼虫、蛹、蝶

【Nコード】

N3862B

【作者名】

まったりorz

【あらすじ】

理解は求めてないし、意味もない。私が望むのは死ぬ事だけで、夢なんて持てるはずもない。

「毛虫はさ、大人になったら綺麗な蝶になるのに、人間は、どんどん醜くなっていくよね。」

緩やかな坂道。

秋の終わりを告げる風が、頬をぴんと刺す。

「そうだね。」

私の前で、兄は笑った。

学習塾の帰り道。

自転車を漕ぐ兄の背中に捕まりながら、私は大人にならなくなかった。

幼かった私は、大人を綺麗な蝶とは思えなかった。

時間が経てば経つほど、ぐにゃぐにゃに歪んでいく生き物に見えていた。

【幼虫、蛹、蝶】

「薄っぺらい人生を送っていくんだね。」

目の前の男は、軽蔑を含めた笑みと共に、そんな言葉を吐き出した。

「まあ、平凡が一番だからね。」

私は、少しの苛立ちを全く表情に出す事もなく軽く答える。

人生に薄いも濃いもないのに。

むしろ、初対面の人間に、そんな事言われる筋合いもないのだけだ。

素晴らしい人生を送るつもりでいる目の前の男は、私にとって何の魅力もない存在で、そして同じ事を、彼も私に対して思ったのだろう。

ただ、それだけの事。

「ごめんね、感じ悪かったよね。」

「ううん、私も態度悪かったし。」

店を出て、美咲は、例の男の発言を詫びた。

その男は、美咲の勤めているラウンジの客で、しつこく誘ってくるけど、二人きりは嫌だから、ということだ。

私ともう一人別の男と、四人で飲みに行くという事になった。

私は、とばかりを受けただけだ。

美咲と駅で別れて、歩いていると、ふと思い出したのだ。

幼い頃、兄の背中で呟いた何気ない一言を。

私は、今まだ蛹なのだろうか？

それとも、もうすでに成虫なのだろうか。

決して私は蝶では、ない。

未来にも現在にも何の魅力も希望も持っていない。

一人の部屋に帰り、薄暗い部屋で、疲れた顔を鏡に映し、
そして一人で朝を迎える。

そんな日々の繰り返し。

鏡に映る私の顔は、もう大人だ。

幼さなんて、微塵も残っていない。

私は、もう大人で、完璧に醜い何かなのだ。

私は、日に日に歪んでいく。

完璧に醜い何かは、また別の醜いものへと朽ちていく。

でも、それは仕方の無いことなのだ。

そんな私の目には、異常に見える人達がいる。

夢やら希望やら、意味不明な矜持を持って生きる人達。

美咲の連れて来た男が、まさにそれだ。

自分の価値観を正しいと信じて疑わない、生をまっとうしようとする人種。

それらときつと私は解り合う事は出来ないのだろう。

私は、死を望んでいるのだから。

人生を楽しむとか、夢を持って突き進むとか、別にそういう人達をバカにしているつもりはない。

大変結構な事だと思う。

でも、こういう私の態度がまた、そういう人達を苛つかせるらしい。

「お前、そんなんで社会に出てやって行けると思ってるのか。」

今まで、何度そう言われてきたのか分からない。

そんな私ももう、あと一年もすれば、社会に出ていく事になる。

もう私は、生きようと死のうとも思わなくなった。

人並みに大学に入り成人を迎えた私は、もう大人になることを憂うこともない。

大人という枠に入れられた私は、ゆつくりと身体が老いていく事を望むだけだ。

時間の経過は、確実に私の身体を蝕んでくれる。

早いか遅いかは分からないが、死は近づいている事に変わりはないのだから。

数十年後か、数年後か、あるいは明日か。

死の権利は平等に私にも与えられている。

孵化を待つ幼虫のように、羽化の前の蛹のように、私はそれを待ちわびている。

平凡な時間の経過。

薄っぺらい人生。

そう、確かにそうなのに、どうしてこんなにも生き難く、こんなにも苦しい？

人は死ぬまでに、生きている苦痛を紛らわせなければ、生きてはいけないのかもしれない。

そう、だから私が、薄っぺらい人生の中で、意味もない、こんな薄っぺらい文章を書き綴ってしまう事も、仕方のない事なのだ。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3862b/>

幼虫、蛹、蝶

2010年10月11日03時38分発行